

ガンコ親父の

プライドの高い北風は悔しかった。昔から人間界では太陽の方が自分（北風）より人気があり、その嫉妬心から太陽をギャフンと言わせるような何か良い方法はないかと考えていた。地上を眺めるとちょうど一人の人間が歩いてきた。北風はその時、アイデアが湧き、すぐに太陽へ挑戦状を叩きつけたのだった。

「やい、太陽や。お前さんと今すぐここで勝負がしたい。さっきから、能天気にもイホイと野歩きしている人間がいるが、あの人間が着ているスウェットの上着を脱がせた方が勝ちということにしようぜ」と太陽に言い寄った。何も知らない太陽はあまり深く考えずに承諾した。ふふっ、今のこの季節の俺は強力だし、逆に太陽の力は冬には弱々しいじゃないかと北風は勝ちを確信した。

北風は先攻後攻も決めずに、勝手に勝負を始めた。パワーを増した冬の北風は夏の台風にも負けないほどの荒々しさだ。歩いている人間の上着を吹き飛ばすくらい簡単だ、と瞬間風速50メートル／秒を上回る強力な風を松次郎に吹きかけた。

突如、強い突風に見舞われた松次郎は大きくよろめいたが、驚きながらもバタバタとひらめく上着を手で押さえた。そしてすぐに上着のジッパーを引き上げた。北風は「エッ」と舌打ちをした。「仕方がない。こんな寒い時期だから、パワー不足の太陽も成功するわけがないだろうし。まあ、今回はドローでも」とあくまでも強気の姿勢を壊さなかった。

次はお前の番だと促された太陽に秘策などはなかった。いつものようにニコニコしながら、光と熱の出力を上げて松次郎を照らした。松次郎は黒い雲と冷たい強風の後に現れた太陽の光にホッとしたものの、今度は急に暑くなってきた。汗が止まらなくなってきた。こりゃたまらんとばかりに上着を脱ぎ捨ててしまった。

まだ陽の光も弱い季節だ。松次郎が上着を脱ぎ出すとは思わなかった北風は驚いた。北風は松次郎がこの時点で相当な距離を歩いており、すでに体温が上がっていたことまでは見抜けていなかったのだ。北風は敗北した。

ウォーキングから帰宅した松次郎を見て妻の貴代は驚いた。まだ、冬なのにスウェットの上着を脱ぎ、半袖シャツ一枚の姿で帰ってきたからだ。松次郎は途中の不思議な天気のことを話したが、貴代には信じられなかった。

「あなたはいつも熱い人間だけど、だからってそんなに暑がるなんて、何か変だわ。こんなご時世だし、先生に電話してみようか？」と真顔になった。

体温計で検温していると、そこに孫の譲（ゆずる）が現れた。松次郎はすぐに相好を崩した。かわいい盛りの孫はやっぱり我が家の太陽でもある。「今日は暑かったし『しまっ

ちゅ伝蔵』をロックで飲むぞ。まさか氷は切らしてないだろうな？」と貴代を見た。「それは愚問よ。あなたの妻歴何年だと思ってるの」と貴代は口を尖らせた。冷たい北風が入り込む隙もない濃密な一家である。北風はここでも「完敗」し、松次郎の「乾杯」の声は太陽のように熱く、圧倒的だった。もちろん検温の結果は問題なかった。

奄美黒糖焼酎



しまちゅ伝蔵
でん
ぞう

常圧蒸留

昔ながらの手造り
こだわり焼酎

喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。



1800ml (25度)



1800ml (25度)

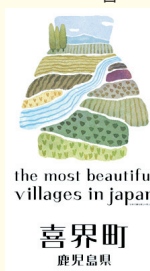


900ml (25度)



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
☎0997(65)0251

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



25度
好評発売中

「太陽」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp>

お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。